

# 市民平和大使が 広島・長崎を訪問

市では、平和への願いを込めた作文を募集し、応募作の中から最優秀賞を受賞した3人のかたを「市民平和大使」に任命しました。そして、市民を代表して広島と長崎の原爆死没者慰霊式・平和祈念式に出席していただきました。また、市民のみなさんが平和への願いを込めて折った千羽鶴を平和公園の慰霊碑にささげてもらいました。

8月14日に行われた大館市平和祈念・戦没者慰霊式では、3人の市民平和大使が広島・長崎を訪問して感じたことを発表しました。その全文を紹介します。

## 長崎・広島を訪れて

長木小 5年

平塚 いづみさん



私は、市民平和大使として八月三日から七日まで長崎・広島を訪れ、広島では平和祈念式に参加してきました。

最初に、長崎の原爆公園に行きました。原爆落下地点には、大きな黒い柱が立てられていて、大館から持って来た折りづるをかざって来ました。お祈りをした後、原爆資料館を見に行きました。

中には、十一時二分で止まった時計がありました。「そうか。十一時二分に原爆が落ちたんだ」と思いました。また、被爆した人の写真、原爆でこわれた家具なども置いていました。映画もあり、人がとけたりしているひさんな様子が写し出されていました。私は

「何ておそろしいことだろう」と思い、むねがつかまってしまいました。

六日の日は、広島での平和祈念式

に出ました。日本人だけでなく外国人人も参加していて、日本だけの問題だけでなく、世界中の人が関心を持っていることなんだなと思えました。「核兵器を作ってはいけない」この言葉



に私も賛成しました。

約一時間の平和祈念式が終つてから、原爆ドームと原爆資料館を見に行きました。原爆が落ちる前と落ちた後のちがいがよくわかりました。たった一つの爆弾で、それも一瞬にして町がこうも変わってしまうとは、本当におそろしいことだと思えました。

長崎・広島に行つて、私が思つていた以上に原爆とはすごくおそろしい物で、五十二年たった今でも苦しんだり悲しんだりしている人々がいることもよくわかりました。そして、平和がいかに大切かということと、「核兵器は二度と作ってはならない」という言葉を忘れてはならないと思えました。